

## 論文

### 沐浴の目的と実施準備に関するテキストの記載内容の検討

加藤 裕美子\*, 妹尾 未妃\*\*, 富岡 美佳\*

Yumiko Kato, Miki Senoo, Mika Tomioka

Key Words; 沐浴, 看護教育, テキスト

#### I. はじめに

沐浴は、身体を清潔に保つこと、血行を促進するなどの効果があり生後1カ月頃まで行われる育児技術である。また、厚生労働省が示した卒業時に到達される技術項目にも記載され、母性看護学、小児看護学領域では看護師として習得しておかなければならない看護技術の1つである。

沐浴は、身体を清潔にすることを目的とするのみならず、全身を観察することや、母児の愛着形成にとっても有意義とされ、古くから行われてきている。しかしながら、沐浴によるエネルギー消耗や体温保持の難しさから、現在では多くの施設で出生直後の沐浴を行っていない。また、新生児に対して沐浴を実施すると、体重減少や哺乳量の低下、低体温など新生児への負担があることが多くの先行研究で述べられている<sup>1)</sup>。くわえて1974年にアメリカ小児学会で沐浴による保清が見直され、ドライスキン法が導入されるようになってきた<sup>2)</sup>。しかしながら、前述したように、沐浴には様々な効果もあり、我が国では多くの病院で実施されており、また退院後の児の感染予防の観点から生後1カ月間は母親に沐浴を推奨しており、沐浴技術の習得が必要とされている。

松尾らによると、沐浴研究は前述した厚生労働省の卒業時の到達する技術が示された2004年より、増加しているものの、沐浴技術の根拠を明確にしている研究がないことが指摘されている<sup>3)</sup>。施設での沐浴に関する実施内容や、母親に行われる指導内容は一定ではなく、使用物品を始め、手技・手順なども統一されていないのも現状である。看護教育で習得した基礎的な技術で、実施施設や方法が変更されても、沐浴が安全に行われなければならない。

また、臨床実習において、看護学生が沐浴の場面でヒヤリハットを体験している事例が報告されている。ヒヤリハットの原因の中には、施設によって使用する物品が異なるため、戸惑いを感じ準備の効率が下がってしまうことなども挙げられている<sup>4)</sup>。安全管理の面においても、看護教育における沐浴技術や効果的な教育を行うことの検討が必要である。

そこで、本研究においては、母性看護学、小児看護学領域で使用されているテキストの沐浴技術に関する記載内容の中から目的と実施準備について比較、検討を行い、安全な沐浴の技術の習得を目指した効果的な方法について考察することを目的とする。

---

\* 山陽学園大学看護学部

\*\* 岡山大学大学院保健学研究科

## II. 方法

2010年～2012年に発刊されている母性看護学、小児看護学領域で使用されているテキスト8冊<sup>5-12)</sup>を分析対象書籍とし、沐浴の目的、実施準備、準備物品、湯温についての記載内容の検討を行った。

## III. 結果

### 1. 沐浴の目的に関する記載内容の検討(表1)

母性看護学、小児看護学領域におけるテキスト8冊の中から、沐浴の目的の記載内容を分析した結果、8カテゴリーに分類された。《清潔》、《観察》、《血行促進》、《母子相互作用》、《心身の爽快》、《習慣》、《感染予防》、《発育促進》の順に多い結果であった。

《清潔》の記載内容として〈身体の清潔を保つ(7)〉が最も多く、〈皮膚の清潔を保つ(1)〉も見られた。《観察》は〈全身状態の観察の機会とする(7)〉が最も多く、〈異常の早期発見(1)〉などの記載がみられた。《血行促進》は〈血液循環を良くする(3)〉、〈新陳代謝を高める(3)〉、〈血行を促進する(2)〉という記載内容であった。《母子相互作用》では〈母児のスキンシップやコミュニケーションの機会(2)〉、〈愛着形成(2)〉などの母子に関連した記載内容があった。母子を限定しない〈実施者とのコミュニケーションの機会(1)〉という内容も見られた。《心身の爽快》では〈心身を爽快にする(2)〉、〈心地よさ(1)〉、〈気持ち良くする(1)〉、〈リラックスできる機会とする(1)〉、〈安眠を促す(2)〉などの記載内容があった。《清潔習慣》では〈清潔習慣を育む(1)〉、〈正しい清潔習慣を身につける(1)〉、〈生活リズムの確立(1)〉などの記載内容があった。《感染防止》に関しては〈感染防止を図る(1)〉というテキストが見られた。《発育促進》に関しては〈適度な運動となり哺乳力や睡眠を促す(1)〉という記載内容が見られた。8冊のテキスト内容のほとんどに記載されていたのが、《清潔》、《観察》であり、《血行促進》、《母子相互作用》、《心身の爽快》、《習慣》、《感染予防》、《発育促進》などは各テキストで記載内容は異なっていた。また、各記載表現はテキスト毎に少しずつ異なっていた。

カテゴリー	記載内容	1	2	3	4	5	6	7	8
清潔	身体の清潔を保つ	○	○	○	○	○	○		○
	皮膚の清潔を保つ							○	
観察	全身状態の観察の機会とする	○	○	○	○	○	○	○	
	異常の早期発見								○
血行促進	血液循環をよくする	○						○	○
	新陳代謝を高める	○						○	○
	血行を促進する		○			○			
母子相互作用	母児のスキンシップやコミュニケーションの機会			○				○	
	実施者とのコミュニケーションの機会						○		
	愛着形成							○	
心身の爽快	心身を爽快にする	○		○					
	心地よさ			○					
	気持ち良くする				○				
	リラックスできる機会とする						○		
	安眠を促す							○	
清潔習慣	清潔の習慣を育む	○							
	正しい清潔習慣を身につける							○	
	生活リズムの確立							○	
感染防止	感染防止を図る	○							○
発育促進	適度な運動となり哺乳力や睡眠を促す							○	

## 2. 沐浴準備に関する記載内容の検討 (表 2)

沐浴準備に関しては、実施者準備、環境準備、必要物品、新生児の観察の4項目が記載されていた。実施者準備について記載されていたテキストは、〈手洗いをする(2)〉があった。環境準備については、〈室温を24～26℃に調節する(3)〉、〈室温を25℃くらいにする(2)〉の室温が記載されているテキスト、〈適度な室温(25℃前後)、湿度を40～60%に調節する(1)〉、〈湿度を50～60%に調節する(1)〉と湿度を記載したテキストも見られた。また〈隙間風が入らないようにする(2)〉があった。8テキストのうち、室温と湿度の共に記載されていたテキストは1テキストであった。

必要物品については、〈必要物品を点検する(4)〉、〈着替えの衣類、湯上りタオルを並べておく2)〉、〈石けん、ガーゼ、ボールは使いやすい位置に置く(1)〉であった。新生児の観察については、〈沐浴前にバイタルサインを測定し、異常のないことを確認する(1)〉であった。沐浴準備に関しては、環境準備が最も多く記載されていた。

## 3. 準備物品に関する記載内容の検討 (表 3)

準備物品の記載内容の記載表現は様々であったが、沐浴槽、石けんなどの洗浄物品、ガーゼ、沐浴布、バスタオル、湯温計、綿棒、臍処置用品、整容用品、衣類、ラジアントウォーマー、洗面器、さし湯、計測機器、膿盆などの記載が見られた。表3に示すとおり、石けんや臍処置用品については、記載内容はテキスト毎に表現方法は異なっていた。石けんに関しては、刺激の少ないものや、臍処置に関しては、具体的薬品名なども記載しているテキストも見られた。また、体温計や体重計などの観察を行うための計測機器や、施設の入院中を想定していたラジアントウォーマーなどを記載しているテキストもあった。ガーゼに関しては、具体的な枚数を記載しているテキストも見られた。また、衣類に関しては、おむつやおむつカバーなどの詳細を記載しているテキストも見られた。

## 4. 湯温に関する記載内容の検討 (表 4)

湯温についての記載は、38℃～40℃が最も多く5件あり、40℃前後が1件、また夏は38℃・冬は40℃が1件、37℃～39℃が1件であった。全体では、37～40℃の幅が見られた。また夏・冬の湯温の記載も見られた。

項目	記載内容	件数
実施者準備	手洗いをする	2件
環境準備	室温を24～26℃に調節する	3件
	室温を25℃くらいにする	2件
	隙間風が入らないようにする	2件
	適度な室温(25℃前後)、湿度を40～60%に調節する	1件
	湿度を50～60%に調節する	1件
必要物品準備	必要物品を点検する	4件
	着替えの衣類、湯上りタオルを並べておく	2件
	石けん、ガーゼ、ボールは使いやすい位置に置く	1件
新生児の観察	沐浴前にバイタルサインを測定し、異常のないことを確認する	1件

項目	記載内容	文献							
		1	2	3	4	5	6	7	8
沐浴槽	沐浴槽		○		○	○	○	○	○
	ベビーバス(2槽式または1槽式)	○							
石けん	石けん	○	○			○			
	洗浄剤						○		
	ベビー用石けん			○					
	石けん(刺激が少なく、良質なものを)				○				
	ボディソープ							○	
	石けん(泡状のベビーソープ)								○
ガーゼ	ガーゼ	○			○		○		○
	清拭用ガーゼ(またはタオル)		○			○			
	ガーゼハンカチ2~3枚			○					
	ガーゼ1枚							○	
沐浴布	沐浴布				○		○	○	
	包布		○			○			
バスタオル	バスタオル	○		○	○		○	○	○
	湯上りタオル		○			○			
湯温計	湯温計		○	○	○	○	○	○	○
	水温計	○							
綿棒	綿棒	○	○		○	○			○
	滅菌綿棒						○		
	ベビー用綿棒							○	
臍処置用品	臍処置セット		○		○	○			
	必要時、臍の消毒セット	○							
	臍処置セット・サリチル酸亜鉛華デンブン			○					
	消毒液						○		
	臍消毒用アルコール							○	
整容用品	ヘアブラシ	○			○		○		
	ブラシ			○					
衣類	着替え一式, おむつ		○			○			
	児の衣類, おむつ			○			○		
	おむつ(オムツカバー)・肌着・上着	○							
	着替えの衣類一式・おむつ				○				
	着替え用肌着・衣服・オムツ・オムツカバー							○	
	着替えの衣類							○	
ラジアントウ オーマー							○		
洗面器	顔用洗面器		○			○			
	洗面器				○		○		
さし湯	差し湯50℃くらい	○							
計測機器	体重計・巻き尺				○				
膿盆							○		

湯温	件数
38℃~40℃	5件
40℃前後	1件
夏は38℃、冬は40℃	1件
37℃~39℃	1件

#### IV. 考察

母性・小児看護学領域で使用されているテキストの沐浴技術に関する記載内容を、目的と実施準備について検討を行った結果、沐浴の目的の記載内容に関しては《清潔》、《観察》、《血行促進》、《母子相互作用》、《心身の爽快》、《清潔習慣》、《感染予防》、《発育促進》などの内容が記載されていた。清潔と全身状態の観察の機会であることが目的と記載されているテキストが最も多かった。しかしながら、注目をしたいのが、記載内容は様々ではあったが〈母子相互作用〉と記載されているテキストが散見したことである。沐浴は母親にとっては、生後 1 カ月間の毎日行われる育児技術でもあり、沐浴を実施する際に、子どもが母親を見つめる様子や、微笑を引き出すように行うこと、また言語的・非言語的コミュニケーションを用いながら沐浴を実施することで、さらに子どもの成長・発達を促進する場になる。また、沐浴を実施する時期によって、児の発達に合わせた援助方法を選択することで、児にとっても安心感にとつながる。小林は、母と子は互いに、皮膚の感覚を介して子は母の存在を、母は子の存在を確かめており、互いに身体の部分語りかけの言葉に同調させて動かして、互いの情報を交換しているといえる<sup>13)</sup>と述べている。このように、母子共に互いに感覚器を通して母子相互作用や愛着形成を行う機会となるため、今回のテキストの分析においてカテゴリー化された〈母子相互作用〉は重要な目的の 1 つであるといえる。

沐浴準備についての記載では、環境準備の記載が多くみられた。これは、体温調整が未熟な新生児の沐浴技術にとっては重要なポイントになる準備である。一般的には、母性看護学、小児看護学領域で行われる演習においては、室温・湿度の調整をはじめに行い、湯温の確認や物品準備を行う。適切な環境調整や湯温、沐浴を速やかに行うための効果的な物品配置は学生にとっても基礎となる沐浴技術であり、臨地で行う様々な場での判断の基準になりうる。児の体温低下が最小限になるように技術を身につける必要がある。新生児の熱喪失のルートには輻射、対流、伝導、蒸散がある。成人と同じ様な体温調節機構になるのは 10 歳頃と言われており、新生児は体重当たりの体表面積が成人の 3 倍あることや、筋肉や皮下脂肪層が薄いこと環境条件によって容易に影響を受けやすい<sup>14)</sup>。このように、環境調整や湯温などに加えて、熱喪失のルートを少なくするために、身体が濡れている時間を少なくする工夫や、実施者の手や衣類などをあたたかくすること、隙間風や温度差が大きい窓の近くなどでの実施には注意が必要なことも合わせて学習しておくことも必要である。

実施準備において実施者の手洗いなどの記載がないテキストも見られた。しかしながら、基礎的な看護技術については手洗いを行うことは必須となっていることから、特記する必要はないが、新生児の感染予防と皮膚への損傷を予防するためにも手洗いや爪を短く切るなどの確認を行うことは必要である。また、新生児に対し沐浴を実施すると、体重減少や哺乳量の低下、低体温など新生児への負担があることが多くの先行研究で述べられており、新生児の生理的特徴からも環境に左右されやすいため、新生児の観察は沐浴前に限らず、沐浴中や沐浴後における経時的な観察が必要である。

準備物品の記載内容は、記載表現は様々であったが、沐浴槽、石けんなどの洗浄物品、ガーゼ、沐浴布、バスタオル、湯温計、綿棒、臍処置用品、整容用品、衣類、ラジアントウォーマー、洗面器、さし湯、計測機器、膿盆などの記載が見られており、テキストによって記載表現が一定ではなかった。看護学生が技術演習で行う際には、テキストによる記載内容が異なる場合、実施時期や実施対象者などを補足する必要がある。また、中井らによると、退院後に経産婦の沐浴において困った項目は、沐浴を実施する時間帯や洗顔の仕方、石けんの種類、湯の温度が多



かったと報告している。沐浴指導を受ける場所や指導者によっても、教示する内容に差がでないようにしつつも、退院後の生活の場で行える個別性のある物品準備や沐浴指導が必要である。

実施の際に事故につながりやすい湯温については、37～40℃の湯温で沐浴を行うことがテキストには記載されていた。看護学生のみならず、退院後、母親が沐浴において困った項目の1つに、初産婦・経産婦ともに湯温が上げられていた<sup>15)</sup>。入院中、沐浴指導で湯温についての説明はなされているが、実際に入院中に沐浴を毎日体験することはなく、退院後の戸惑いへとつながると考えられる。このように、看護基礎教育においても、退院後の指導を踏まえて、沐浴の目的や実施準備をイメージできることも必要である。

安全で確実な沐浴技術の習得を目指すためには、沐浴の実施時期や、実施者に合わせた補足説明や指導を行うことの必要性が示唆された。

## V. 今後の課題

母性・小児看護領域において、沐浴技術は必要不可欠な技術の1つである。しかしながら沐浴を実施する時期や、実施者、実施場所によっても方法や物品が多様化している。

本研究では、少ないテキストの検討であったため、目的や実施準備についての明確な検討を行うには限界があった。今後、沐浴に関する研究論文の検討や沐浴以外の新生児の清潔に関する更なる研究を行う必要がある。また、本研究は目的と実施準備に焦点を当てて分析を行ったが、沐浴の手順などの記載内容の分析を行う必要もある。

## VI. 文献

- 1) 志賀くに子, 阿部範子他; A病院におけるドライテクニック・沐浴が新生児に与える影響—新生児の皮膚保湿度・体温測定値・細菌コロニー数の観点から—, 日本赤十字秋田短期大学紀要, 第13号, 1-7, 2007
- 2) 阿見鮎美, 高松祐可他; 沐浴からドライテクニックへの変更の効果, 獨協医科大学病院総合周産期母子医療センター参加部門, 34-36, 2007
- 3) 松尾泰子, 富岡美佳他; 新生児の清潔方法としての沐浴に関する文献の検討, 第51回日本母性衛生学会総会, No. 3, 233, 2010
- 4) 佐久間良子, 有田久美他; 沐浴演習時のヒヤリハットの実態から基礎看護技術教育方法を見直す(第2報)—基本動作の技術チェックを取り入れた学習の成果—, 第38回看護教育, 362-364, 2007
- 5) 中野綾美; ナーシング・グラフィカ 29 小児看護学・小児看護技術(第1版第6刷), 95-99, 株式会社太洋社, 大阪府, 2012
- 6) 森恵美; 系統看護学講座専門II母性看護学各論 母性看護学②(第11版第8刷), 263-269, 株式会社医学書院, 東京都, 2011
- 7) 村上睦子; PERINATAL CARE 臨床助産技術ベーシック&ステップアップテキスト 助産の力を伸ばそう! 2010 夏季増刊(通巻379号), メディカ出版, 2010
- 8) 村本淳子; ウィメンズヘルスナーシング周産期ナーシング(第2版1刷), 263-264, スーベルヒロカワ, 東京都, 2011
- 9) 横尾京子; ナーシング・グラフィカ 31 母性看護学・母性看護技術(第1版第6刷), 149-157, 株式会社メディカ出版, 大阪府, 2012

- 10) 山元恵子;写真で分かる小児看護技術(第 2 版第 1 刷), 36-41, 株式会社インターメディカ, 東京都, 2011
- 11) 平澤美恵子, 村上睦子;写真でわかる母性看護技術(初版第 3 刷), 54-75, 株式会社インターメディカ, 東京都, 2010
- 12) 小野正子, 草場ヒフミ;根拠がわかる小児看護技術(第 1 版第 4 刷), 105-109, 株式会社メジカルフレンド社, 東京都, 2011
- 13) 小林加乃子, 小林久美子他;沐浴指導の再検討—体験学習を試みて—, 日本農村医学会雑誌, 39(4), p.989, 1990
- 14) 5) 前掲, 95-99
- 15) 中井敦子, 細川喜美恵他;産褥 1 カ月における家庭での沐浴実施状況からみた入院中の沐浴指導に関する評価—退院後のアンケート調査から—, 第 39 回母性看護学, 51-53, 2008